

# 授業観察・授業協議会について

## 1 【授業観察】について

- 「授業観察メモ」が、各指導案の本時の展開の見開きの右側ページにあります。
- 授業観察する際に、「子どもたちの姿」の具体についてメモを残してください。
- その際の、メモする内容は次の①～③等のような内容のメモをお願いします。
  - ① 子どもたちの発言・つぶやき等の具体的な内容
  - ② 疑問に思ったり、つまずいたりしている様子
  - ③ 子どもたちの姿（目の輝き，うなずき，頭をひねる 等）
 など、子どもたちが見せる具体的な姿や気づかれたこと等をメモしてください。
- 授業中は、授業観察メモの左側を中心にメモしていただき、右側のその状況や生まれたきっかけや要因と考えられることについては、授業後や授業協議会の際に記入してください。

## 2 【授業協議会】について

- 授業者から授業についての報告の後，協議に入ります。
- 「授業観察メモ」に基づき，子どもの様子とその変化の具体について交流します。
- 子どもの姿を交流し，そのきっかけや要因について協議をしていただきます。

※授業観察メモは次のような様式になっています。

① 子どもたちの発言やつぶやきの具体的な内容 ② 疑問に思ったり，つまずいたりしている様子など ③ 子どもたちが見せている姿（目の輝き，うなずき，頭をひねる等）	その状況が生まれた きっかけや 要因と考えられること

## 英語科学習指導案

- 1 学年・組 第1学年1組（男子14名 女子16名 計30名）
- 2 単元名 東京書籍 NEW HORIZON English Course 1 Unit 8 イギリスの本
- 3 単元設定の理由

### （1）単元観

本単元は学習指導要領の「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。{(3) 話すこと [やりとり] イ}」を受けるものであり、インターネット電話を利用したやり取りを取り上げている。そのやり取りの中で、持ち物などがどこにあるかをたずねたり、代名詞を用いて誰のものかを答える表現を練習する内容となっている。文化面では、ハリーポッター、ピーターラビット、くまのプーさんなどのイギリス文学作品を話題に挙げ、「読書」の楽しさを世界中で共有できることが伝わる内容となっている。

### （2）生徒観

本クラスはペアワークを男女関係なく誰とでもできる前向きな雰囲気を持っており、本単元で出てくる疑問詞などを用いての活動も円滑に行えると予想する。1学期のパフォーマンス課題ではALTに自己紹介をし、ALTから2問程度の質問に答えるやりとりを行ったが、3割の生徒が「Do you〜?」の質問にbe動詞（「Yes, I am.」など）で答えている。会話がつながるよう正しく答えられる練習として、帯学習では定型会話の練習を行っている。また、本校では週5日朝読書を行っている。事前アンケートによると、11Rの生徒は、朝読書をしている生徒が82%と、朝読書は定着しつつある。しかし朝読書は行うものの、25%の生徒は読書自体が苦手である。入学してから東朋中学校の図書館を一度も利用したことがないと答えた生徒が42%おり、図書室の利用が定着していないといった実態が見られる。

### （3）指導観

本単元では終末の言語活動として、外国人に日本のおすすめ本を紹介することを設定した。おすすめ本を紹介することの必然性を持たせるため、スピーチの原稿を書いて暗唱し（本時はその原稿を書く活動）、インタビューテストにおいてALTと対話する場面を設定する。この活動を通して日本の図書文化を知ること、学校図書館利用の推進のきっかけとなると考えている。生徒はUnit6で三人称単数現在、本単元で所有代名詞や目的格代名詞を学習するため、第三者の情報について述べる復習の活動ともなる。三人称単数現在でこれまでの文法が整理できなくなっている生徒や、書くこと自体に苦手意識を持つ生徒もいるため、班での教え合いやモデル文を活用して指導を行う。

## 4 学校図書館の機能の活用

- 生徒が自ら学ぶ学習・情報センターとしての機能
  - ・学校図書館を利用して、紹介する本を見つける

## 5 単元の目標

- 間違うことをおそれずに積極的に書こう・話そうとしている。
- 語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく話すことができる。
- 疑問詞、人称代名詞目的格の用法を理解する。

## 6 育成する21世紀型“スキルと倫理観”

課題発見・解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神	思いやりと感謝の心
問題を正しく理解し、自分でより良い解決策を考える。	お互いの意見を認め、話し合える。	工夫や努力で成功させるための行動を継続できる。	色々なもののおかげで自分がいることを実感する。

7 単元の評価規準

ア コミュニケーションの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
①間違ふことをおそれずに積極的に書く・話そうとしている。	①語句や表現，文法事項などの知識を活用して正しく話すことができる。	/	①Where～？の文とその答え方の形・意味・用法に関する知識を身につけている。 ②Whose～？の文とその答え方の形・意味・用法に関する知識を身につけている。 ③人称代名詞の目的格の形・意味・用法に関する知識を身につけている。

8 単元の指導と評価の計画（全8時間）

【★本単元で身に付けさせる 21 世紀型 “スキル&倫理観” の具体】

時	学習内容	主な学習活動	評価規準 (方法)
1	疑問詞 where を用いた文構造の理解	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・言語活動の場面や目的について知る。 (ALT からのビデオレターを見て，おすすめ本紹介の目的を知る。) ○Where～？を使った文の構造について理解する。 ・Where～？を用いた文の構造を知る。 ・Where～？を用いた文を使えるように練習する。	エ① (単元テスト， 期末テスト)
2	Part 1 の内容理解	・教科書の本文を通して Where～？の文の構造を理解し，使い方を練習する。	エ① (ワークシート)
3	whose の文構造の理解，人称代名詞目的格の理解	○Whose～？を使った文の構造について理解する。 ・Whose～？を用いた文の構造を知る。 ・Whose～？を用いた文を使えるように練習する。	エ② (単元テスト， 学年末テスト)
4	Part 2 の内容理解 紹介する本を探す	・教科書の本文を通して Whose～？の文の構造を理解し，使い方を練習する。	エ② (ワークシート)
5	Part 3 の内容理解	○人称代名詞目的格の形・意味・用法を理解する。 ・人称代名詞目的格の形・意味・用法を知る。 ・人称代名詞目的格を用いた文を使えるように練習する。 ・教科書の本文を通して人称代名詞目的格の文の構造を理解し，使い方を練習する。	エ③ (ワークシート)
6 本時	紹介原稿の作成	・ALT に紹介したい日本の図書について紹介文を書く。 (目標 6 文以上)	イ①
7	紹介原稿の見直し，発表練習	・紹介原稿を見直し，ペアやグループで発表練習を行う。	ア(観察)
8	★終末の言語活動	・ALT に日本の図書について紹介し，ALT から 2 問程度の質問に答える。 (目標 6 文以上)	イ①

9 本時の学習

- (1) 本時の目標      ALT に紹介したい日本の図書について紹介文を書く。(目標 6 文以上)
- (2) 準備物          おすすめの本 (学校図書利用)
- (3) 本時の学習展開

過程	学習活動	指導上の留意点 本図書資料の活用 ★30%未満の生徒への手立て	評価規準 【評価の観点】
導入	1 warm-up (帯学習) ・chants ・定型会話練習 ・2文 writing テスト 2 本時のめあてを提示し、 本時の流れを説明する。	・テンポよく行う ★机間指導を行い、会話が続いているペアを支援する。	
本時のめあて: ALT に紹介したい日本の図書について紹介文原稿を書く (目標 6 文以上)。			
展開	3 教師自身のおすすめ本の紹介  4 紹介文の作成	本図書資料の活用 ・生徒にとってできるだけ興味関心のある本を扱い「相手につたえること」を重視した活動とする。 ★紹介文作成のポイントを示す ※必要な情報とは… ・書名          ・登場人物 ・あらすじ      ・作者	
モデル文(『この世界の片隅に』の紹介文) ①This is 『In this corner of the world』. ②The writer is Fumiyo Kono. ③It's a story of Hiroshima in 1945. ④The heroine is Urano Suzu. ⑤She doesn't have her right arm. ⑥I love her , her family, and the view of Kure city.		予想される生徒の反応 ・モデル文とほぼ同じ ・モデル文①～④は単語などを変えて書けるが、オリジナル文が思い浮かばない。	
		★モデル文を用意し、単語や動詞を変えるなどして支援する ・何を書けばよいか分からない生徒に、書くことができる内容を提示する。 (例) ・好きな登場人物・いつの話か (時代) など	
まとめ	6 本時の学習を振り返る。 ワークシートに振り返りを記入する。		イ① 後日パフォーマンステスト

10 参考図書リスト

	書名	著者名	出版社名
1	読書とコミュニケーション ビブリオバトル実践集 小学校・中学校・高校	須藤秀紹・粕谷亮美	子どもの未来社

## 授業観察メモ ⇒ 授業協議会で交流・協議

- ☆ ① 子どもたちの発言・つぶやき等の具体的な内容  
 ② 疑問に思ったり、つまずいたりしている様子  
 ③ 子どもたちの姿（目の輝き，うなずき，頭をひねる 等）
- などの授業中の子どもたちが  
 見せる具体的な様子や気づき  
 をメモに残してください。**
- ☆ 授業中は，できるだけ子どもたちの様子をメモしていただき，右側の，その状況が生まれたきっかけや要因と考えられることについては，授業後や研究協議の際に記入してください。
- ☆ 授業協議の際に，このメモを基に子どもたちの様子とその変化について交流し，そのきっかけや要因について協議します。

① 子どもたちの発言やつぶやきの具体的な内容 ② 疑問に思ったり，つまずいたりしている様子など ③ 子どもたちが見せている姿（目の輝き，うなずき，頭をひねる等）	その状況が生まれた きっかけや 要因と考えられること

## 社会科学習指導案

- 1 学年・組 第1学年4組（男子14名 女子17名 計31名）
- 2 単元名 世界の諸地域 ヨーロッパ州
- 3 教材 進むヨーロッパ統合

### 4 単元設定の理由

#### (1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領（地理分野）の2内容の大項目「(1) 世界の様々な地域」の中項目「ウ世界の諸地域」に該当する部分である。

本単元では、ヨーロッパ州においてEU加盟国の人々が日常生活で自由に域内の国境を越えて買い物や仕事をしていること、多様な産業が地域で展開している様子、人々の移動、EU内の交通機関による結びつきなどを追究することで、EU加盟国の相互関係や、域内の地域格差の実態を理解することができる。特に近年、イギリスがEUからの離脱を決定しており、この決定の背景を考察することで、地域統合によって生じる課題や解決に向けた取組について構想することができる。

#### (2) 生徒観

本学級の生徒の社会科に対する関心が高く、意欲的に授業に取り組むことができる。問いについて教科書や資料から答えを見つけた時は、多くの生徒が発表しようとするが、問いについて資料や既習事項、生活経験から考えて答える時は、自分の答えを持っていても発表しにくい様子である。

#### (3) 指導観

指導に当たっては、図書資料を含むさまざまな資料や写真を提示することで、ヨーロッパ州が比較的温和で牧歌的風土の自然とキリスト教という宗教により共通性をもつことを明確に捉えることができるようにする。その上で、EU、アメリカ合衆国、日本のGDPを比較する活動を通して地域統合が強まった背景を理解できるようにする。さらに、近年の動きとして、イギリスのEU離脱決定を取り上げ、地域統合の結果生じている課題と、その課題を解決するためにどのような動きがあるのかを考察させたい。

単元を通して、班や小集団で活動する時間を設け、意見を交流する機会を確保する。資料や既習事項、生活経験から考えたことを伝え合い、他者の意見に触れることで自分の考えを深め、全体での共有ができるようにしたい。

### 5 学校図書館の機能の活用

#### ○ 生徒が自ら学ぶ学習・情報センターとしての機能

- ・ヨーロッパ州の自然環境、人口、民族、産業の特色を読み取ることができる資料を図書から作成し、提示する。
- ・「世界のさまざまな地域の調査」の大単元で、本単元で学習したことなどを踏まえ、世界の国々の地理的特色を図書館を活用して調べ、レポートにまとめる。

### 6 単元の目標

- ・比較的温和で牧歌的風土の自然とキリスト教という宗教により共通性をもつヨーロッパ州が経済的・政治的に統一を強めたことを理解する。
- ・イギリスのEU離脱決定の背景から地域統合の利点と課題を表現できる。



7 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・ヨーロッパ州の自然環境や人々の生活の様子、政治的・経済的な結びつきや、地域統合の課題について関心を持ち、追究しようとしている。	・ヨーロッパ州の国家間の統合が進められてきた理由や、統合が可能となった背景について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・ヨーロッパ州の人々の生活や、統合の成果などについて、様々な資料を収集し、地域的特色を読み取ることができる。	・ヨーロッパ州について「国家間の統合とその課題」の主題を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

8 育成する“21世紀型スキルと倫理観”

課題解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神	思いやりと感謝の心
問題を正しく理解し、自分でより良い解決策を考える。	お互いの意見を認め、話し合える。	工夫や努力で成功させるための行動を継続できる。	色々なもののおかげで自分がいることを実感する。

9 単元の指導と評価の計画

次	時	主な学習活動と内容	評価				評価基準	評価方法
			関	思	技	知		
一	1	○ 単元を通して考える課題として、イギリスのEU離脱決定を設定するとともに、ヨーロッパ州の自然環境、歴史などについて教科書、地図帳、図書資料などから調べて整理する。			○		・ヨーロッパ州の自然環境や歴史などを諸資料から読み取ることができる。 【技能】	ノート
	2	○ ヨーロッパ州の国々の雨温図を読み取り、気候の特色をとらえたうえで、農業との関係を考察する。		○		・資料からヨーロッパ州各国の気候と農業の特徴を読み取り、気候と農業の関係を表現することができる。 【思考・判断・表現】	ノート	
	3	○ ヨーロッパ州の人々の生活や文化にキリスト教が深く関係していることを、年中行事や都市の形態から読み取る。	○			・ヨーロッパ州の人々の生活の様子、文化について関心を持ち、追究しようとしている。 【関心・意欲・態度】	行動観察 ワークシート	
	4	○ EUが発足した背景やEU加盟国間で可能なこと、ロシアのパイプラインによる石油輸出がヨーロッパに与える影響を教科書や資料から読み取って調べ、整理する。			○	・EUが発足した背景や加盟国のメリットを理解している。 【知識理解】	ノート	
	5 本時	○ イギリスのEU離脱決定の背景を、諸資料を通して考察し、説明できる。		○		・地域統合の課題を多面的・多角的に考察し、表現できる。 【思考・判断・表現】	ノート ワークシート	

10 本時の学習

(1) 本時の目標

- 近年, 明らかになった地域統合に向けた課題の要因について説明できる。
- ヨーロッパには文化の共通性が多いものの, 民族, 宗教, 文化と多様性がみられることから統合に困難がともなうことを説明できる。

(2) 本時の観点別評価規準

観点	評価規準
社会的な思考・判断・表現	地域統合の課題をヨーロッパの民族, 宗教, 文化の多様性の面から考察し, 説明できる。

(3) 本時の学習展開

過程	学習活動	指導上の留意点 (◆配慮が必要と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (評価の観点)
導入	1 本時の課題を把握する。 (1) 復習プリントを解く。 (2) EUのメリットを確認しながら, 黒板に整理する。 (3) 本時の課題を設定する。  めあて例: イギリスのEU離脱決定の背景と離脱の是非について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EUがどのような組織かを確認できるようにする。</li> <li>◆想起しやすいように国境の写真などの画像を提示する。</li> </ul>	
展開	2 資料を基に課題について考える。 (1) 難民の流入や, 国民総所得の格差などが読み取ることができる資料を配布し, 個人でイギリスの決定の要因を考える。 (2) グループで交流する。 (3) 全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆個人で考える時間を十分に確保する。</li> <li>◆つまづいている生徒に机間指導を行い支援する。</li> <li>・課題に対する答えをグループで考え, ホワイトボードに記入させる。</li> </ul>	
まとめ	3 地域統合の課題についてまとめる。  まとめ例: イギリスは, 加盟国間の経済格差や, それに伴う移民の増加などからEU離脱を決めた。 EUには加盟国間の関税がかからないなどのメリットがあり, 離脱すべきではないと思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で学習した内容をほかの地域にも当てはめ, 考えさせる。</li> </ul>	地域統合の課題をヨーロッパの民族, 宗教, 文化の多様性の面から考察し, 説明できる。 (思考・判断・表現)

11 活用本リスト

	書籍名	著者	出版社
1	ビジュアルシリーズ 世界再発見 1 フランス・南ヨーロッパ	ベルテルスマン社 ミッチェル・ビーズリー社	同朋舎出版
2	ビジュアルシリーズ 世界再発見 9 ロシア・北/東ヨーロッパ	ベルテルスマン社 ミッチェル・ビーズリー社	同朋舎出版





## 国語科学習指導案

- 1 学年・組 第2学年1組（男子20名 女子18名 計38名）
- 2 単元名 論理を捉えて
- 3 教材 根拠を明確にして意見を書こう  
～人間社会の健康安全のための動物実験の是非を問う～

### 4 単元設定の理由

#### (1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領国語第2学年「B書くこと」のア「社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること」、イ「自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること」の能力の育成をねらいとする。

これまで総合的な学習の時間での調べ学習や、国語で作文力向上のため学校図書館を活用してきた。本単元では、「人間社会の健康・安全を確保するための動物実験は是か非か」という課題を設定している。生徒が、是か非かの立場をとり、図書館資料等を活用していくことを通して、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめる力を身に付けることができるとともに、立場をとって、相手に伝わりやすい文章にすることを通して、文章を構成する力を身に付けることができる単元である。

当学年は9月に、理科で解剖体験を行った。実験では、臓器の仕組み等、体の構造を学習したが、その一方で生命を犠牲にすることに対する意識も高まっているのではないかと考えられる。

医学の進歩、洗剤やシャンプーなどの日用雑貨品の安全性は動物実験を通して確保されている。生命尊重の立場を取るか、人間社会の進歩のための尊い犠牲という立場を取るかを学校図書館の資料をもとに自分の立場のよりどころとするために調べ、整理し、まとめ、意見文を書くことにより学習指導要領に示された能力の育成を図る。

#### (2) 生徒観

生徒アンケート（自校作成アンケート）

（単位 %）

調べ学習、意見文、自分の意見の発表についてのアンケート	肯定的評価
① 本や新聞、インターネットなどで調べることで、新しい発見をすることに面白さを感じる。	87
② 自分の考えや意見を書いたり、主張するために本や新聞、インターネットなどを活用したことがある。	61
③ 自分の考えや意見は、クラスで尊重されていると思う。	34
④ 自分の意見を発表することは楽しい。	47
⑤ 機会があれば自分の意見や主張を発表してみたいと思う。	42

調べ学習自体の興味・関心は高い。また、自分の考えや意見の拠りどころとして、書籍等のメディアを活用したことがある生徒も半数以上にのぼる。ただ、「自分の意見がクラスで尊重されているか」という肯定的解答は34%、さらに自分の意見を発表することの楽しさを感じている生徒は47%、機会があれば自分の意見や主張をしてみたい、と感じている生徒は42%である。調べることに對する関心は高いが、自分の意見を公の場で伝えることに意欲的な生徒は全体の半数以下である。

#### (3) 指導観

日常で、動物に関する情報を目にすることや、家庭等で動物と接する機会を持つ生徒は多い。本単元で設定したテーマについて、生徒が自ら課題について考え、図書資料を活用して、自分に必要な情報を集め、比較、検討しながら自分の考えをまとめさせることを通して、自分の考えを伝わりやすい表現にして書く力を育てる。

イの「自分の立場」を明確にすることは、意見文を作成するうえで重要となる。

まず、取り上げる問題や課題に対する賛否や解決方法などについて、自分がどのように考えているかを明確にさせ、その根拠となる資料は何かをはっきりさせる。

テーマには、「命」の捉え方が課題になる一面があるため、生徒の感情のみが立場を決める根拠とならないように、考えの根拠とした事実や事柄をどのように構成し、相手に効果的に伝えていくのかを考える場を設定し、生徒同士の対話を通して考えさせる。

### 5 学校図書館の機能の活用

- 生徒が自ら学ぶ学習・情報センターとしての機能
  - ・テーマに関連した図書を読み、調べ学習を行う。
  - ・調べた図書から、自分の意見の根拠とする。

6 単元目標

- (1) 社会生活の中の事柄について、自分の立場や意見を明確にして意見文を書こうとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 社会生活について学校図書館等を活用して材料を集め、自分の意見をまとめる。(B書くこと ア)
- (3) 自分の立場や意見が読み手に伝わるように、根拠を明らかにして構成を工夫する。(B書くこと イ)
- (4) 自分の考えを明確に表現するために、辞書を活用するなどして、言葉の意味を吟味しながら文章を書く。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ))

7 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・社会生活の中の事柄について、自分の立場や意見を明確にして意見文を書こうとしている。	・社会生活について学校図書館等を活用して材料を集め、自分の意見をまとめている。(ア) ・自分の立場や意見を明らかにして構成を工夫している。(イ)	・自分の考えを明確に表現するために、資料等を活用するなどして、言葉の意味を吟味しながら文章を書いている。(イ(イ))

8 育成する“21世紀型スキルと倫理観”

課題発見・解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神	思いやりと感謝の心
問題を正しく理解し、自分でより良い解決策を考える。	お互いの意見を認め、話し合える。	工夫や努力で成功させるための行動を継続できる。	色々なもののおかげで自分がいることを実感する。

〈具体的な生徒像〉

自分の立場を明確にし、複数の資料から必要な情報を選択して根拠を持って他者と交流することを通して、自分の考えと他者の考えを比較・検討することで理解を深め、より良い解決策を考えようとしている姿。

9 単元の指導と評価の計画

次 時	学習内容	評 価				
		関	書	言	評価規準	評価方法
一 1	意見文の書き方を知る。 ①立場を明確にし、資料から意見文の根拠を選択する。 ②意見文の構成を学ぶ。 ③意見文を書く。 ④意見文を交流する。	○	◎		・社会生活の中の事柄について、自分の立場や意見を明確にして意見文を書こうとしている。(関心・意欲・態度) ・読み手に自分の考えやその根拠などが効果的に伝わるように文章の展開を工夫している(イ(オ))	ノート
二 2	意見文の課題を決め、自らの立場を明確にする。 ○動物実験について知る。 ・ドレーズテストの写真を見て、ドレーズテストの意義、社会的役割について考える。 ・資料を読み、動物実験に関する情報を知る。 ○自分の意見と、その理由を書く。		◎		・社会生活について学校図書館等を活用して材料を集め、自分の意見をまとめている。(B書くア)	ノート 発表 授業観察
二 (本時) 3	意見を支える資料を集め、選択する。 ○自分の立場を決め、意見の根拠となる資料を選択する。 ○資料から反論を想定する。 ○自分の意見について、根拠をもとに話し合う。		◎	○	・社会生活について資料等を活用して材料を集め、自分の意見をまとめている。(B書くア)・	ノート 発表 授業観察
二 4	構成を考え意見文を書く。 ○意見、根拠、反論に対する考えについて構成メモを作成する。 ○推敲を行う。		◎		・社会生活の中の事柄について、自分の立場や意見を明確にして意見文を書こうとしている。(関心) ・自分の立場や意見を明らかにして構成を工夫している。(B書くイ) ・自分の考えを明確に表現するために、資料等を活用するなどして、言葉の意味を吟味しながら文章を書いている。(イ(イ))	ノート 発表 授業観察
三 5	意見文を読み、考えを交流して助言し合う。 ○意見が明確に述べられているか。 ○根拠が意見を支えるものとして納得がいくものになっているか。 ○反論が意見を深めるものになっているか。		◎		・社会生活について学校図書館等を活用して材料を集め、自分の意見をまとめている。(B書くア)	ノート 発表 授業観察

10 本時の学習

(1) 本時の目標

動物実験の是非について資料を活用して材料を集め、自分の意見をまとめる。 (B書くことア)

(2) 本時の観点別評価規準

観 点	評 価 規 準
書く能力	動物実験は、是か非かについて資料を活用して自分の意見をまとめている。 (B書くア)

(3) 本時の学習展開

過 程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (◆配慮が必要と判断した生徒への指導の手立て)	評 価 規 準 (評価方法)
導 入 (五分間)	1 めあての確認をする。	・前時で決めた意見の確認をする。	
	動物実験に関する資料を読み、話し合うことを通して、自分の立場を決める。		
展 開 (四十分間)	2 前時で集めた資料を読む。 (個人)	・それぞれ視点が異なる資料を読む。 ◆資料を読むことが困難な生徒には、教師がページを限定する。 ◆考える根拠となるキーワード等を示す。	・動物実験について学校図書館等を活用して材料を集め、自分の意見をまとめている。 (B書くア)
	3 資料について交流する。 (集団・全体)	班で資料を読む。 ・資料に基づいて、感じたことや気づいたこと、考えたことを話し合うことを通して、テーマについての理解を深める。 ・反論を予想し、それに対する意見を考える。	
	4 意見や選択した根拠をもとに立場を明確にする。 (個人)	・立場を決定した理由と、その根拠となる資料を活用して、考えをまとめる。	
ま と め (五分間)	5 立場を交流し話し合う。 (集団・全体)	・立場を決定した根拠や、立場が変化した理由を話し合う。 ・資料の解釈の違いや、立場を決定するために適切な資料理解になっているか等を話し合う。	





## 音楽科学習指導案

- 1 学年・組 第3学年1組（男子22名 女子18名 計40名）
- 2 題材名 耳でたどる音楽史
- 3 教材 スメタナ「ブルタバ（モルダウ）」他
- 4 題材設定の理由

### （1）題材観

本題材は、中学校学習指導要領音楽第2学年及び第3学年(2)B 鑑賞の指導事項(1)ア「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」イ「音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること」、[共通事項]のうち、音色、テクスチュアを主に扱う。

鑑賞において、教材となる楽曲は、その曲単体で扱われることが多いが、指導事項(1)イ「音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞する」能力の育成には、音楽史の大きな流れを理解することが、学習を深める一つの手立てになる。また、「ブルタバ」は、祖国チェコをこよなく愛するスメタナの思いが詰まった作品であり、歴史との関連が深い。更には、標題が設定されているため、生徒が情景をイメージしやすい。

西洋音楽史の大きな流れについては、4つの時代(バロック派、古典派、ロマン派、近現代)に区分し、それぞれの代表的な作曲家と有名な楽曲を教材として扱う。時代によって、使われる楽器、演奏される人数等の変化で音楽の発展がうかがえる。テクスチュアも同様である。特に「ブルタバ」は、ロマン派音楽であり、音色や旋律によって、人の思いや感情を描く要素が強いため、これらの特徴を聴き取って価値づけを行うことで指導事項(1)ア「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わう」能力を高めることが期待できる。

### （2）生徒観

本クラスは、音楽には積極的に取り組んでいる。特に表現分野においては、合唱コンクールでリーダーを中心に一生懸命練習し、回を重ねるごとに団結が増して、一体感のあるハーモニーを響かせた。ところが、鑑賞分野になると、受動的になる生徒がほとんどである。その原因として次の二つが考えられる。一つ目は、課題意識をもって学習に取り組めていないことである。二つ目は、鑑賞の授業において「わかった」や「なるほど」といった実感を伴う理解が一部の生徒で留まっていることである。

### （3）指導観

#### ○導入の工夫

クラシック音楽(西洋音楽)は、世界中に広がっており、世界共通の文化である。生徒にとっては少し遠い存在であるように思われるが、生活においても、CM等身近なところで使われていることも少なくない。クラシック音楽に興味・関心をもってもらえるよう、最初に名曲の鑑賞をし、なぜ何百年もの間、これらの音楽が人々に愛され続けているのか、課題意識をもたせたい。

#### ○音の視覚化(特徴的な旋律の動き等を表したものの紙媒体で配布する)

「わかった」や「なるほど」といった実感を伴う理解が不十分である原因として、音は見えないもので捉えにくいことが挙げられる。テクスチュア(旋律の重なり)がまさに理解しづらい事項である。日々の学習において、比較的生徒が意識できている共通事項は、強弱や音色である。音楽のよさや美しさを味わうためには、音を視覚化することで「テクスチュア(旋律の重なり)」についても注目して聴き、音楽から時代を捉えることができる姿を目指す。

## 5 学校図書館の機能の活用

### ○学習・情報センターとしての機能

- ・ 教室での授業で学んだことを確かめ、広げ、深める資料を集めて、読み取り、自分の考えをまとめて発表するなど、生徒の主体的な学習活動を支援する。

## 6 題材の目標

- ① 曲のよさや美しさを味わって聴く活動に主体的に取り組むことができる。
- ② 旋律、テクスチュア、強弱、楽器の音色を知覚し、それらの動きが生み出す雰囲気を感じることができる。
- ③ 旋律、テクスチュア、強弱、楽器の音色の働きが生み出す曲想と時代背景の関わりを理解し、作曲者の祖国への思いを感じ取ることができる。
- ④ 作曲者の思いを感じ取り、根拠をもって批評することができる。



7 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
○音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	○旋律、テクスチャ、強弱、楽器の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

8 育成する“21世紀型スキルと倫理観”

課題発見・解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神	思いやりと感謝の心
問題を正しく理解し、自分でより良い解決策を考える。	お互いの意見を認め、話し合える。	工夫や努力で成功させるための行動を継続できる。	色々なもののおかげで自分がいることを実感する。

9 題材の指導と評価の計画

次時	学習内容 本 図書資料の活用	評価		
		関鑑	評価規準	評価方法
1	クラシックの名曲を聴いて、クラシックに関心をもつ。 J.S.バッハ 「G線上のアリア」、「フーガト短調」 ヴィヴァルディ「四季から春」 モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」 ベートーヴェン「交響曲第5番(運命)」、「交響曲第9番(第九)」 ショパン 「別れの曲」、「幻想即興曲」 リスト 「愛の夢」、「ラ・カンパネラ」 ヨハン・シュトラウス2世「美しく青きドナウ」 ドヴォルザーク「交響曲第9番(新世界より)」 ラフマニノフ「ピアノ協奏曲第2番」 ガーシュウィン「ラブソディ・イン・ブルー」 ラヴェル「ボレロ」 本 音楽に関わる書籍を収集して音楽室に置く。	◎ ○	・音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。(関) ・旋律、テクスチャ、強弱、楽器の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。(鑑)	行動観察 ワークシート
	2	◎	・音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート
	3	◎ ○	・音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。(関) ・旋律、テクスチャ、強弱、楽器の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。(鑑)	行動観察 ワークシート
2	4	◎	・旋律、テクスチャ、強弱、楽器の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。	行動観察 ワークシート
	5	◎	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。	行動観察 ワークシート

10 本時の学習（4 / 5）

(1) 本時の目標

B以降の部分について鑑賞し、感じたことを音楽の特徴と関わらせて説明することができる。

(2) 本時の観点別評価規準

観 点	評 価 規 準
鑑 賞	旋律、テクスチャ、強弱、楽器の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受しながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。

(3) 本時の学習展開

過 程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (◆配慮が必要と判断した生徒への指導の手立て)	評 価 規 準 (評価方法)
導 入 (五分間)	○<帯活動>アルトリコーダー演奏 (ペア学習)  ○前時の学習を振り返る。 Aの場面について	・コミュニケーション力育成のため、ペアでお互いに聴きあいアドバイスし合う活動を取り入れる。 ・チェコの歴史的背景を確認する。 ・書籍で調べた内容を確認する。	
展 開 (四十分間)	○本時のめあてを確認する。  ○自分たちの班の場面を決定し(C, D, EFの3場面)、それぞれの音源をもとに鑑賞する。 ・個人思考(音楽2回通り聴く) ・集団思考 (繰り返し聴き思考する←→交流する)  ○楽曲の背景や作者の思い、表現したもののが音楽の要素とどのように関わっているのか、整理・分析する。  ○グループで整理・分析したことを全体で交流する。(まとめ)	・それぞれの場面の旋律の動きの図(音を視覚化する)を配布する。  ◆友達の意見や考えを聴き、いいと思った意見を参考にさせる。 ・曲の要素を聴き取るために、気になったところを中心に何度も繰り返して聴くように促す。 ・グループを見て回りながらそれぞれの学習進度に合わせてアドバイスをを行う。 ・音楽の要素と楽曲の背景や楽曲に込められた思いを関連付けながら整理・分析するように促す。 ・論理的に発表できるように、キーワードを設定させる。 「例:私たちが感じたことは(キーワード)です。(結論)理由は～だからです。(根拠)」	音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞している。 ・行動観察 ・ワークシート
ふ り 返 り (五分間)	○本時のふり返しを行う。 ○新たな課題設定を行う。 ・自分の経験と共通する部分はあるだろうか。 ・自分にとってどんな価値があるだろうか。	・この題材の一時間目に提示した曲紹介を参考にまとめるよう促す。  まとめ例: 例1:私たちが感じたことは「聖ヨハネの急流」の場面では、チェコが支配されていた苦しみが表されているということです。理由は、シンバルやピッコロの音色や管弦楽の全体の響きや速い速度で大音量で演奏されていることが、川が激しく荒れ狂った様子を表すとともに、チェコが支配されていた苦しみと重ね合わせていると思ったからです。 例2:私たちが感じたことは「幅広く流れるブルタバ」の場面では、自由な未来になって欲しいというスメタナさんの思いが表わされているということです。理由は、弦楽器の滑らかな旋律や心地よい充実した音量が、流れがさらに大きくなり悠々と流れ去っていくブルタバの様子を表すとともに自由な未来になって欲しいというスメタナさんの思いと重ね合わせていると思ったからです。	



## 総合的な学習の時間学習指導案

1 学年・組 第3学年2組（男子23名 女子18名 計41名）

2 単元名 生き方学習Ⅲ

3 単元設定の理由

（1）単元観

本単元は、卒業の時期を間近に控えた生徒に対して、卒業までの4カ月間の中学校生活の中で、これまでにお世話になった人たちに対する感謝の気持ちと一層充実した生活を送ろうとする態度や思いやり・感謝の心を育むことを意図したものである。これまで、1年生の生き方学習Ⅰでは、仕事調べ・職業講座、2年生の生き方学習Ⅱでは、職場体験学習を行い、様々な情報を収集し、レポートの作成や発表の学習を通して将来の進路について考えてきた。3年生では、1・2年生の学習をもとに生き方学習Ⅲで自分の人生を振り返り、今後の将来への展望についてより真剣に考える良い機会とする。その活動を通して、自己分析を行うことで自分の長所や欠点に気付くなど、今、自分がしなければならないことを見つけ解決する能力をつけることにつながる。

（2）生徒観

何事にも積極的に活動に取り組む生徒が多い。9月に行われた文化祭では、パートリーダーや指揮者、伴奏者が中心に話し合いや声かけを行い、それに他の生徒も応えようと一人一人が学級のためにできることを考え、協力して取り組むことができた。授業中では、個々で自分の意見を考えることやその意見を班や小グループでは発言することはよくできるが、全体の場での発表となると、特定の生徒が積極的に発表をし、他の生徒は発表をすることが難しい。

また、生徒は朝読の時間には自分で本を準備し、読書をする習慣はついている。さらに、10分休憩や昼休憩にも読書をするほど、読書が好きな生徒も少数いる。しかし、毎日の昼休憩に図書室を利用している生徒は非常に少ない。

＜アンケート結果＞ 肯定的評価

授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。	65.7%
話し合い活動では、仲間たちと意見を交流しながら解決まで考えています。	90.7%
授業では、自分の考えと理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表しています。	68.7%
自分の学級は、授業中、全員の学習（学び）が深まるように協力していると思います。	80.6%
図書室を1週間に1回以上利用しています。	40.6%

（3）指導観

自分のこれまでの人生を振り返りながら、自分史を作成する。これにより、自分がどのように成長してきたのか、またたくさんの人たちの支えと協力のおかげで、今の自分があることに気づき、お世話になった方々への感謝の気持ちを自覚し、高めていく。この活動を通して、自分の進路や将来の夢について自分たちができることを考え、実践できるように指導したい。

また、自分史をよりよいものにするために、偉人伝などの本を利用し、人が見て分かりやすくするためのポイントや自分が振り返るのに書きやすい方法などを自分たちで見つけていくことができるようにしたい。

4 学校図書館の機能の活用

○ 生徒が自ら学ぶ学習・情報センターとしての機能

- ・偉人伝など自分史を書くために参考となる図書を見つけ、調べ学習を行う。
- ・調べた図書から、構成のよいところや自分史に取り入れたいところを紹介する。

5 単元の見積

- (1) 自ら生き方を振り返り、将来に対する関心を高め、課題を設定し、解決しようと主体的に取り組むことができる。
- (2) 表現方法を工夫しながら、調べたことを内容に応じて分かりやすくまとめることができる。

6 単元の評価規準

課題を設定する力	情報を活用する力	表現する力	将来を設計する力	関わる力
①自分のこれまでの生き方を振り返り、よりよい生活を目指そうとしている。 ②自分史の活動を通して、今の自分の課題を見つけ改善しようとする。	①自分に必要な情報を探することができる。 ②収集した情報を取捨選択し整理しようとしている。	①自分の考え、意見に理由をつけて、相手に伝えようとしている。 ②人が見てわかりやすいように、レイアウトや構成を工夫することができる。	①学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげようとしている。	①他者の意見を取り入れ、自分のものをよりよくしようとしている。 ②発表するときに、聞き手のことを考え、工夫することができる。

7 育成する「21世紀型“スキル&倫理観”」

課題発見・解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神	思いやりと感謝の心
問題を正しく理解し、自分でより良い解決策を考える。	お互いの意見を認め、話し合える。	工夫や努力で成功させるための行動を継続できる。	色々なもののおかげで自分があることを実感する。

8 単元の指導と評価の計画

次	時	学習内容	課 情 表 将 関					評価規準	評価方法
			課	情	表	将	関		
一	1	① 1・2年生で学習した内容を振り返り、3年生では「自分史」を作成することを確認する。 ② 自分史の内容のイメージを発表する。 ③ よりよい自分史を作成するために偉人伝など参考になる図書を探す。	①					・自分のこれまでの生き方を振り返り、よりよい生活を目指そうとしている。 ・自分に必要な情報を探することができる。	ワークシート 授業観察
	2	① 自分が参考になる部分について理由をつけて意見をまとめる。 ② グループで交流をする。 ③ 全体に発表するためのよりよいプレゼンの方法を話合う。			①		・自分の考えを理由をつけて相手に伝わるように工夫している。 ・他者の意見を取り入れ、自分のものをよりよくしようとしている。	ワークシート 発表	
	3 本時	① 図書から参考になった部分をグループごとに全体で発表する。 ② 他者の意見を参考によりよい構成を考える。			①		・自分の考えを理由をつけて相手に伝わるように工夫している。 ・収集した情報を取捨選択し整理しようとしている。	ワークシート 発表 授業観察	
二	4 5 6 7 8	○収集した情報をもとに自分史の作成をする。 ・図書の参考になる部分を取り入れる。			②		・人が見てわかりやすいように、レイアウトや構成を工夫することができる。	授業観察	
三	9	○自分史のこだわったところや工夫したところを中心に発表する。	②			②	・発表するときに、聞き手のことを考え、工夫することができる。	ワークシート 発表 授業観察	
	10	○自分史の作成を通して、分かったことや今後につなげたいことを振り返る。 ○今後の5年後の自分への手紙や保護者への感謝の手紙へつなげる。				①	・学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげようとしている。	ワークシート 発表 授業観察	



9 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・自分がよいと思った本の内容を理由をつけて紹介することができる。

(2) 本時の観点別評価規準

観 点	評価規準
表現する力	自分の考えを理由をつけて、相手に伝わるように工夫をしている。

(3) 本時の学習展開

過程	学習活動	指導上の留意点 (◆配慮が必要と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (評価方法)
導 入 (五分)	1 前時までの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分史の自分たちのイメージがどうだったか振り返りをする。</li> </ul>	
	2 めあての確認をする。		
自分史を作成するために、参考となる図書を紹介することができる。			
展 開 (四十分間)	3 図書から参考になった部分を全体で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの参考となったものをメモする。</li> <li>・どの部分を参考にしたいかを分かりやすく発表させるようにする。</li> <li>◆図書の参考となるポイントをワードなどにして板書する。</li> <li>◆板書しているワードなどを見ながら、考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを理由をつけて相手に伝わるように工夫している。(ワークシート, 発表)</li> </ul>
	4 友だちの意見を聞いて、参考にしたいものを発表する。		
ま と め (五分間)	5 参考にした部分を紹介して現段階での構成を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの意見を聞いて、より分かりやすい自分史をつくることを意識するようになる。</li> </ul>	

10 活用本リスト

	書籍名	著者	出版社
1	この人を見よ！歴史をつくった人びと伝 1巻～20巻	プロジェクト新・偉人伝	ポプラ社
2	愛と真実の人びと シリーズ		岩崎書店
3	ちくま評伝シリーズ (ポントレ) シリーズ	筑摩書房編集者	筑摩書房
4	学研まんが 人物日本史 シリーズ		学習研究社
5	コミック版 日本の歴史 シリーズ		ポプラ社



**授業観察メモ ⇒ 授業協議会で交流・協議**

☆ ① 子どもたちの発言・つぶやき等の具体的な内容

② 疑問に思ったり、つまずいたりしている様子

③ 子どもたちの姿（目の輝き、うなずき、頭をひねる 等）

**などの授業中の子どもたちが  
見せる具体的な様子や気づき  
をメモに残してください。**

☆ 授業中は、できるだけ子どもたちの様子をメモしていただき、右側の、その状況が生まれたきっかけや要因と考えられることについては、授業後や研究協議の際に記入してください。

☆ 授業協議の際に、このメモを基に子どもたちの様子とその変化について交流し、そのきっかけや要因について協議します。

① 子どもたちの発言やつぶやきの具体的な内容 ② 疑問に思ったり、つまずいたりしている様子など ③ 子どもたちが見せている姿（目の輝き、うなずき、頭をひねる等）	その状況が生まれた きっかけや 要因と考えられること

## 学級活動学習指導案

- 1 学年・組 第3学年4組（男子20名 女子18名 計38名）
- 2 題材名 「進路に向けての作戦会議～みんなのための勉強法を考えクラスに紹介しよう～」  
学級活動（3）一人一人のキャリア形成と自己実現

### 3 題材について

#### （1）生徒の実態

生徒たちは、入学から現在まで、様々な場面で自分の進路、将来設計を探り続ける学習をしてきた。今年度になり、本学級の目標「進め」を合言葉に、行事等を通して常に向上心を持つことの大切さを日々の学級活動で指導してきた。その結果、授業をより落ち着いて受けることができる雰囲気が高まってきた。一方で、学級内には人間関係の難しさや、学習にうまく取り組めないなどの課題や問題を抱えた生徒もいる。これまで、行事への取り組みはもちろん、日々の生徒会の取り組みや学級内の課題に対し、どう取り組み、解決するかをクラスみんなで話し合い、仲間と共に協力して支え合い、助け合って活動することで成果を上げてきた。次の進路決定を迫られる今、進路の実現を目指すべく、また今の時代の変化に伴い、卒業後の進路選択に関わる問題を自分自身の課題として受け止め、どう解決していくかは大切である。クラスの団結力を生かし、それぞれの進路実現に向けて前向きに進み、乗り越えて行けるようにしたい。

#### （2）題材設定の理由

本題材は、中学校学習指導要領特別活動「学級活動」における内容2の（3）一人一人のキャリア形成と自己実現について、を受けて設定している。義務教育最終年度を迎え、進路決定の時期が間近に迫ってきている。進路決定は個人の問題だが、それに至るまでには進路を安心して選択できる環境が必要であり、学級の集団としてのレベルが問われる団体戦となる。現在、学校行事をほとんど終え、いよいよ本格的な受験勉強を行っていくことになる。自分に見合った勉強法を模索する必要があることや、勉強に対しての意欲がわからないなど、様々な悩みをかかえている生徒も少なくはない。団体戦として戦っていくために必要な作戦会議として、この題材を設定した。進路決定を行う上で自分の悩みや困っていることを出し合い、お互いの思いを共有し、支え合い、助け合って進路決定ができるようなクラス作りと雰囲気づくりをさらに進める必要があると考える。

#### （3）指導について

4月から行事やさまざまな活動の取り組みをクラスの力を集結して取り組むことを意識させてきた。体育大会、文化祭に取り組む際の過程の大切さ、取り組んだ後の達成感、満足感を持たせることはもちろん、日常の小さな取り組みについても成果を上げるためにはどうすればよいか、生徒は考えてきた。さらに、毎日の学活や道徳などの時間で、一人一人の思いや考えを発言させる場面を作ることで、発言する事への慣れとそれを受け止める集団作りを意識してきた。進路決定を行う上で、チーム（団体）として乗り越えていくために、お互いの悩みや心配事・困っていることを出し合い、卒業までの残りの期間をクラス全員で協力し支え合い、助け合っていけるように指導していく。

### 4 学校図書館の機能の活用

- 生徒が自ら学ぶ学習・情報センターとしての機能
  - ・テーマに関連した図書を読み、調べ学習を行う。
  - ・調べた図書から、自分の意見の根拠とする。

### 5 指導のねらい

受験にむけてどのように学習を進めていくかを考え、お互いの意見を共有することで、チームとしての雰囲気づくりや、みんなと一緒に頑張ろうとする望ましい集団作りを通して、一人一人の進路実現にむけての見通しを持たせる。

6 評価の視点と本実践における評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
人間としての生き方や学ぶこと、働くことなどに関心を持ち、自己のよさを伸ばしながら、自主的、自律的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	自己の将来に希望を抱き、その実現に向け、現在の生活や学習を振り返り、これからの自己の生き方などについて考え、判断し、実践している。	学ぶことと働くことの意義や、自己の能力や適性、進路選択に必要な情報収集や将来設計の仕方などについて理解している。

7 育成する“21世紀型スキルと倫理観”

課題発見・解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神	思いやりと感謝の心
問題を正しく理解し、自分でより良い解決策を考える。	お互いの意見を認め、話し合える。	工夫や努力で成功させるための行動を継続できる。	色々なもののおかげで自分がいることを実感する。



(育成する力を身につけた生徒の姿)

受験勉強に対する不安を解消させるための手立てを必要な資料から読み取り、その情報を参考に自分なりの勉強法を考え、自ら実行し、振り返ることでその勉強法を組み立てる。実証をクラスの人々に1つの提案として紹介することで、チームとして受験勉強にむけて一生懸命に取り組むことができる生徒。

8 展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
中間試験後	学活 ・中間試験の結果を受けて、今後の受験勉強をどうしていくかを考える。	・自分の思いを素直に発言できるように助言する。 ・図書(学校図書館)で自分なりの勉強方法を探せることに気付かせる。	<b>【知識・理解】</b> ・自己の目標や課題を明らかにし、課題に対応していく考え方を理解している。 (行動観察) (進路希望調査) (ワークシート)
10月10日	進路説明会 進路希望調査	・進路に向けた取組について、自分の強みや弱みを考える場面を持つ。	
随時	午後学活 ・進路(受験勉強)についてどう進めて行くか	・個人の思いや感じ方を尊重し、実感を伴って考える。	

9 本時の指導と生徒の活動

(1) 本時の課題「みんなで受験勉強を乗り切るために勉強法を考え、共有する。」

(2) 本時のねらい

受験勉強についての悩みや心配事を共有する中で、自分なりに調べた勉強法をクラスで出し合い、共有することで団体戦の意識をクラスとして高めていく。

(3) 本時の学習展開

	活動の内容	指導上の留意点 (◆支援の手だて)	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始	1 今日の「作戦会議」の内容について説明する。	・受験を戦っていくうえで、今抱えている悩みや困っていることを打ち明け、そのためにクラスみんなで考えた団体戦としての勉強方法を紹介し、みんなで共有する。	
展開	2 司会の進行で調べてきたことについて出し合う。 3 出し合ったことについて意見を出す。	◆調べてきたワークシートをテレビ投影し、全体共有しやすいようにする。 ・発表内容についてできるだけ多くのコメントをさせるように促していく。 ◆個人の思いや考え方を尊重することで、班で活発に意見交流を行う。	【思考・判断・実践】 クラスとしてどう活動していくかについて建設的な意見を述べている。(観察)
まとめ	4 クラスとして今後どうするかをまとめる。	・話し合った内容を生かし、個人の思いや考え方も大切にしながらまとめる。	

(4) 事後の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
随時卒業まで	進捗状況の共有 進路に向けての支え合い	悩みや心配事を共有し、支え合う。 団体戦(チーム)を意識させる。	【思考・判断・実践】 話し合ったことが行動化できる。

9 活用本リスト

	書籍名	著者	出版社
1	中学の勉強のトリセツ	梁川由香	学研プラス
2	中学5教科の科学的勉強法	萩生田忠昭	評論社
3	脳が冴える15の習慣 記憶・集中・思考力を高める	築山 節	NHK出版
4	手紙屋 蛍雪編～私の受験勉強を変えた十通の手紙～	喜多川 泰	ディスカヴァー・21
5	学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話	坪田信貴	KADOKAWA
6	和田式勉強のやる気をつくる本 やれない自分を変えるちょっとしたアイデア75	和田秀樹	学研教育出版

## 授業観察メモ ⇒ 授業協議会で交流・協議

- ☆ ① 子どもたちの発言・つぶやき等の具体的な内容  
 ② 疑問に思ったり，つまづいたりしている様子  
 ③ 子どもたちの姿（目の輝き，うなずき，頭をひねる 等）
- などの授業中の子どもたちが  
 見せる具体的な様子や気づき  
 をメモに残してください。

☆ 授業中は，できるだけ子どもたちの様子をメモしていただき，右側の，その状況が生まれたきっかけや要因と考えられることについては，授業後や研究協議の際に記入してください。

☆ 授業協議の際に，このメモを基に子どもたちの様子とその変化について交流し，そのきっかけや要因について協議します。

① 子どもたちの発言やつぶやきの具体的な内容 ② 疑問に思ったり，つまづいたりしている様子など ③ 子どもたちが見せている姿（目の輝き，うなずき，頭をひねる等）	その状況が生まれた きっかけや 要因と考えられること